



JEG ニュースレター 147号

www.jegschweiz.com

2014年10月8日発行

小さな証

1973年の秋、イスラエルのキブツで勤労奉仕をしていた若者の上にシリアの爆撃機が、松林ハイディ姉の証し 2p

僧侶から牧師へ

9月28日のスイスJEG礼拝に、元天台宗僧侶・松岡広和牧師をメッセンジャーとしてお迎えしました。P3

福音ネットワーク

南ドイツの日本語で聖書を学ぶグループのネットワークを目指すマイヤー牧師のお働きを紹介します。 p4

聖書塾受講に至るまで

欧州で初めて、ミラノで開講されたハーベスト・タイム・ミニストリーズ聖書塾の受講に至った今村姉の手記。 p7

小さな祈り

輝く贖いの真理を仰ぎ見て、自ら十字架を負い、喜んで苦難を選び取った歴史の人々の従順をわたしたちにも与えてください。



主は私の羊飼い。私は、乏しいことはありません。主は私を緑の牧場に伏させ、いこいの水のほとりに伴われます。主は私のたましいを生き返らせ、御名のために、私を義の道に導かれます。

詩篇 23：1-3



日本語で聖書を学ぶスモールグループの輪が、マイヤー牧師の奔走と情熱によって南ドイツ地方で拡がりつつあります。神の家族として、信仰の絆でしっかりと結ばれる福音ネットワークの成長をスイスJEGも支援していきます。

Photo: Jgelisloch(D) マイヤー牧師が住む村

ちいさな証

神様の護りの手

松林ハイディ

スイス日本語福音キリスト教会会員



Nein danke, doch nicht Israel! So ungefähr habe ich gedacht, als Koji mir vor ein paar Monaten verkündete, dass wir diesen Herbst zusammen mit Geschwister der Gemeinde nach Israel reisen würden. Inzwischen haben wir Vorbereitungsseminare gehabt und uns ernstlich mit der geplanten Studienreise auseinandergesetzt, was viel dazu beigetragen hat, dass ich mich nun auf diesen kurzen, aber sicher intensiven Israel-aufenthalt freuen kann.

Vor 41 Jahren, also im Herbst 1973, musste ich Israel fluchtartig verlassen, nachdem der Kibbuz, wo ich zusammen mit einer Gruppe junger Menschen gearbeitet hatte, von Syrien aus bombardiert und komplett zerstört worden war. Eigentlich sollte der nahe gelegene Militärflughafen getroffen werden, aber die Bombe verfehlte ihr Ziel. Obwohl wir uns dazumal immer wieder unter den Bäumen verstecken mussten, sobald wir tieffliegende Flieger sich nähern hörten, hatte ich keine Angst, da ich mich von Gott beschützt wusste. Das schwer zu beschreibende Szenario, das wir jedoch in der Nacht vor unserer Rückreise erlebten, verfolgte mich noch viele Nächte. Mir wurde bewusst, wie schrecklich Krieg für diejenigen ist, die in einem betroffenen Land leben, und die nicht flüchten konnten, wie wir dazumal.

Das Eindrücklichste von allem werde ich nie mehr vergessen: Von den 1000 Bewohnern und den ebenso vielen Helfern aus verschiedenen Ländern wurde niemand verletzt oder gar getötet; - unsere Gruppe wurde kurz bevor die Bombe detonierte, geweckt und in einen Keller umquartiert; die beiden Wächter, die sich normalerweise kreuzten beim Hin- und Herschreiten, befanden sich zu diesem Zeitpunkt in der hintersten Ecke im Gespräch miteinander.

Alle andern Bewohner waren in dieser Nacht bereits in den Bunkern untergebracht, als sämtliche Häuser und Gebäude mit einem ohrenbetäubenden Lärm in sich zusammenfielen. Eines war uns klar: Gott hat seine Hand über uns gehalten und uns vor dem Schlimmsten bewahrt! Wir waren unendlich dankbar für die Bewahrung, die wir während des Jom Kippur-Kriegs erfahren durften, aber auch dafür, dass wir das Leid derjenigen Menschen, die vom Krieg betroffen sind, nun besser verstehen und für sie beten können.

”イスラエル？ いいえ、結構です！”数ヶ月前に夫のコージから、この秋にスイスJEGの兄弟姉妹とともにイスラエルに行くと言われた時の私の正直な反応でした。そうこうするうちに私たちは聖地旅行の準備の為にセミナーをシリーズで2度受け、この企画された研修旅行と真剣に向き合うようになり、この短期であるけれども集中的なイスラエル滞在を楽しみにするようになりました。

今から41年前、1973年の秋、私はイスラエルを逃避行のごとく去らねばなりませんでした。その年、私はスイスからの若者達のグループと共にキブツで勤労奉仕をしていました。そのキブツがシリア空軍の爆撃にさらされ、破壊し尽くされたのです。イスラエル空軍の基地がキブツの近くにあったための誤爆だったようでしたが、私たちは爆撃機が近づいてくると、しばしば木陰に隠れなければなりませんでした。



エリコの遺跡にて27.9.73

しかし、低空飛行する戦闘機の爆音を耳にしたとき、私は神によって護られていることを知っていたので不安に襲われる事はありませんでした。この戦争が起こったため、帰途に着こうとしていた前夜に体験した描写しがたいシナリオは、夜な夜な私を悩ませることになりました。残酷な戦争が起きて、私たちのように逃避する事も出来ず、その戦地となった土地で、それでも生きて行かねばならない人々の心を

思わずにいられませんでした。

もっとも感動的な一つの出来事を私は決して忘れる事はないでしょう。この爆撃によって1000人に及ぶキブツ住民や、世界各国からのボランティアの誰一人も殺されたり、負傷したりしませんでした。そして、爆弾投下の少し前、私たちは真夜中に起こされ、地下壕に移されましたが、通常その時刻にその地点を巡視していたはずの二人の守衛が、幸運なことに建物の後方で話をしていたために命拾いをしたことです。

地上にあった全ての家々や建物が耳をつんざくような爆撃音の中で破壊されてしまいましたが、キブツの住民は既に夜のうちに地下壕に避難させられていました。それは、神の手が私たちの上に差し伸べられ、最悪の事態から護られていたという明白な事実です。

私たちは、ヨムキプール戦争の間に体験した主の護りに、語り尽くせぬ感謝の念を持つと同時に、戦争に巻き込まれた人々の苦しみと悲しみがより理解できるようになり、それらの人々のために祈ることが出来るようになりました。





1、9月26日(日)のスイスJEG礼拝は、元天台宗僧侶の松岡広和牧師(埼玉県川口市、単立のぞみ教会)を説教師としてお迎えしました。先生は、「変えられた人生」Das veränderte Lebenをテーマに第二コリント人への手紙5章17節からメッセージを取り次いでいただきました。(通訳:マイヤー・マルチン牧師)

天台宗僧侶の次男として育った松岡広和氏は大正大学大学院まで仏教を学び、人生の目的を探求されていました。しかし、そんな彼の韓国留学中に主イエス・キリストと出会い、思いがけない人生転換を経験し、キリスト教牧師になるまでの感動的な証しをしていただきました

松岡牧師は一ヶ月に渡るドイツ滞在中、マイヤー牧師とともに、Karlsruheほか、Basel、Bad Saulgau、Stuttgart-Vaihingen、Oltenなどの家庭集会を廻られ、証しとメッセージの御奉仕をされ、9月30日にチューリッヒ空港より帰国されました。スイスならびに南ドイツにおけるお働きに感謝します。

9月26日の説教は、スイスJEGのHPでビデオ<http://www.jegschweiz.com/礼拝メッセージ-audio-video/>でご覧いただけるほかスイスJEGメッセージ専用HPでも日独両国語でお聴きになれます。<http://jeg.meielisalp.ch>

なお、松岡牧師の著書「イエスに出会った僧侶-ありのままの仏教入門」(いのちのことば社刊)には、師がまだ仏教者だった時に救われ、牧師になるまでの証しと、日本仏教の歴史と姿、キリスト者としての仏教行事への対処法などが詳しく書かれています。読みたい方は、スイスJEG文庫担当のクライナー千恵子姉にお問い合わせください。



事を目的として日本各地で活動しています。今村姉の学びに祝福が注がれ、必要な知恵と力が与えられますようお祈りしています。

今村姉の聖書塾を受講するに至った動機を記した手記が7ページに掲載されていますのでお読み下さい。



ミラノ賛美教会で、中川牧師と聖書塾の呉服姉(トリノ在住)

3、第31回ヨーロッパ・キリスト者の集いで外部講師として力強いメッセージと伝道の証しをされた黒田禎一郎師(現北浜インターナショナル・バイブル・チャーチ牧師)は、ドイツの神学校で学ばれた後、欧州で初めての日本語教会をデュッセルドルフに創立された方で、この度、クリスチャン成長講座(全11冊)という、グループで学ぶためのテキストを書き上げられました。初心者にとっても、聖書を正しく、そして楽しく理解出来るようにとの意図で書かれたものです。さらに、聖書を系統的に学びたいというクリスチャンにも適しており、家庭集会、青年会、スモールグループなどでも使っていただける書物です。見本誌が届いていますので、松林までお申し出ください。



なお、北浜インターナショナル・バイブル・チャーチにおける黒田牧師の説教は次のサイトでお聴き(ビデオ/音声)になれます。<http://j-ibc.ne.jp/video/church.htm>

4、日本人にもよく知られるゴッホ、レンブラント、ミレー、スペインのエル・グレコやベラスケスといった画家の名作を、彼らの信仰が絵画にどのように反映されているかを読み解く「信仰の眼で読み解く絵画」シリーズ(いのちのことば社刊)の第3巻が、キリスト者の集いを機にお交わりいただいた、著者である岡山敦彦牧師(大分めぐみ教会)より、スイスJEGに寄贈されました。本書は、信仰者の眼を通し、画家のプロフィールと時代的背景がうまく描写されており、小説のように興味深く読めるのが特徴です。新スイスJEG文庫にて貸し出されています。



5、パリ・プロテスタント日本語キリスト教会の山越茂樹兄、純子姉は、26年に渡るフランス滞在中、パリ教会やキリスト者の集いで、大きな働きをされましたが、兄の定年退職により10月8日、本帰国されました。しばらくの間、埼玉県川越市の山越兄の実家に滞在し、住まいを探されます。新住所ならびにメールアドレスは松林に照会ください。ヨーロッパにおける山越兄姉の長年の献身的な奉仕と働きに心から感謝し、祖国における新生活に主の導きと祝福が豊かにありますようお祈りいたします。

6、オーニング宣教師、クンツ・プリスキラ宣教師、ラシェンコ・ペラ宣教師、マルティン裕子宣教師からのRundbrief、工藤篤子メルマガ、井野葉由美メルマガ号、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語教会月報、ケルンボン教会月報、ルーマニア川井牧師の週報、パリ教会パルタージュ、イザール通信、在欧日本人宣教機関紙が届いています。お読みになりたい方は、松林までご一報下さい。



スイスJEG愛餐会スナップから:大塚ファミリー、エリアン姉送別会

2、ヨーロッパでは初のハーベスト・タイム・ミニストリーズ聖書塾が去る9月25日から27日までミラノにて開講されました。日本からお越しくださった中川健一牧師自らの貴重な講義をスイスJEGからは今村葉子姉が受講しました。中川牧師は来年4月にもSLIMカンファレンスの講師として渡欧を予定されています。この聖弟子書塾はイエス・キリストの大宣教命令に従って聖書の内容を教え、弟子訓練を行う事、また、聖書をヘブル的視点から正しく学ぶ

福音ネットワーク作りを目指して

日本語で聖書を勉強する南独/スイスのスモールグループの活動

スイス日本語福音キリスト教会の牧師マイヤー・マルチン師は、福音ネットワーク作りを目指し、現在、南ドイツとスイスの地において、10箇所を越える聖書勉強会、聖書を読む会、家庭集会などを巡回され聖書の学びを導いておられます。



“フライブルグ”3人衆” 10.8.2009

スタートは2010年、Freiburg大学で学んでいた留学生の聖書勉強会でした。この勉強会は、当時留学生であった廣江美智子姉（現シグリスト美智子姉）、河尻直兄（現愛知県金城学園教諭）、そして、サッカーの監督になるための勉強をしていた菊地祥彦兄（現オアシスチャペル利府キリスト教会・神学生）が中心になってお世話されていました。彼らが留学を終えて帰国せねばならぬ時に、マイヤー牧師にこの勉強会を続けてくださるようにと依頼したのがきっかけとなりました。Freiburgで学生を相手に聖書の勉強会を始めた後、次々にいろんな所からも依頼を受け、日本語で聖書を勉強したい方々を集め、聖書を教えるようになりました。

スタートは2010年、Freiburg大学で学んでいた留学生の聖書勉強会でした。この勉強会は、当時留学生であった廣江美智子姉（現シグリスト美智子姉）、河尻直兄（現愛知県金城学園教諭）、そして、サッカーの監督になるための勉強をしていた菊地祥彦兄（現オアシスチャペル利府キリスト教会・神学生）が中心になってお世話されていました。彼らが留学を終えて帰国せねばならぬ時に、マイヤー牧師にこの勉強会を続けてくださるようにと依頼したのがきっかけとなりました。Freiburgで学生を相手に聖書の勉強会を始めた後、次々にいろんな所からも依頼を受け、日本語で聖書を勉強したい方々を集め、聖書を教えるようになりました。



Karlsruhe: 主に主婦たちが聖書を勉強するために集まっています。ここでは、松岡先生の証しを聞きました。

現在はFreiburg③、Karlsruhe①Basel④の聖書研究会のほか、Strassbourgでの”聖書のお話を聴く会”②のお手伝い（ミラノ賛美教会・内村伸之牧師とスイスJEGの今村兄姉が協力）、Stuttgart-Vaihingenの家庭集⑥（シュトゥットガルト日本語教会所属）、デュッセルドルフ日本語キリスト教会におけるご奉仕（月一回程度の礼拝説教）などで、毎月、車で4千から5千キロの距離を走り回っておられます。（マイヤー牧師の自宅Bad Liebenzell近郊 Igelsloch村 ⑦）



Strassbourg : 「聖書のお話を聴く会」

真理を求めているということです。

聖書を学ぶ会に初めて来られたある学生の声：「私はクリスチャンではありませんが、それでも参加して、一緒に聖書を勉強することは出来ますでしょうか？せっかくヨーロッパへ来ているので、是非ともヨーロッパの文化の背景であるキリスト教について学びたいのです。また、イエス・キリストがどういう人であったのかを知りたいのです。」このような学生の正直な問いに、元宣教師のマイヤー牧師は、嬉しさで笑みがこぼれそうです！



Freiburg : 「Bibelkreis」と言う勉強会

マイヤー牧師のこれからの課題そして計画として、南ドイツ Trossingenの音楽大学⑧でも聖書勉強会の機会を提供したいことです。また今後、南ドイツに散らばっているスモールグループを神様の家族として、交わりと信仰を深めるためにネットワーク化し、まとめていくことも計画されています。どうぞ、そのためにもお祈りください。



Basel: 家庭集会、松岡先生を囲んで



日出ずる國から

素晴らしい証の数々

愛知県は 春日井福音自由教会の
伊藤和人兄から



愛する主にある忠
実な主の僕であられ
るスイス教会の兄弟
姉妹へ

貴い主の聖名を心
より崇め奉ります。

いつもいつも主に
あってのご奉仕心よ

り感謝申し上げます。こんな短期間に、ヨーロッパ・キリスト者の集いのホームページに続いて、こんなにも充実した集いの証しと感想をニュースレターにして編集発信して下さい、私はもう、どう感謝したらよいのか！

野口恭一先生から集いの様子を伺い、今年も集いが、主の恵みと憐れみの内にお一人お一人のために用いられ祝福されたことを感謝していたところですが、こんなにも素晴らしい証しの数々。まだまだ読み切れていませんが、思わず先ずもってスイス教会のニュースレターを編集そして校正して下さっている兄姉に感謝の気持ちをお伝えさせていただきます。本当に大変な作業をありがとうございました。

お陰で遠く日本にあって、ヨーロッパの状況がよく分かり来年のためにも祈らせていただくことができそうです。本当にありがとうございました。

田辺先生もこれで一区切りされて、いよいよ帰国モードに入られることと思えます。どうぞ先生ご夫妻の欧州での最後の奉仕の上に主の導きと祝福があるようにと祈っております。

尽きせぬ感謝と共に愛知県よりご挨拶申し上げます。

この夏、スイスJEGを訪れて
東京はお茶の水・DRCnetの
松下瑞子姉から

スイスJEGの愛する兄弟姉妹へ



この夏、JEGの礼拝に出席し、皆様とお会い出来たのは嬉しい事でした。時間がなくてゆっくりとお話する機会がありませんでしたが、また

の機会を楽しみにしております。

JEGの牧会を担うようになったマイヤー師とふれて、色々とお話出来た事も幸いでした。同師の説教は、日本語及び内容、そして心に触れる話し方、に感動すら覚えました。

このような方を牧師として招聘出来た事は素晴らしい恵みだと思います。勿論、完全な牧者はいないので、問題が出ることもあるかと思いますが、一人ひとりが霊的に成長すれば、そうした事も乗り越える事ができるでしょう。



この夏、クルーニー美術館(パリ)にて

震災関係の為に何時もお祈りと捧げものを有り難うございます。まだまだ終息する事はありません。特に霊的な意味でのケアは益々必要になっているとの事です。広島でも、泥かき等の作業は次第に

必要性が減少していますが、スピリチュアルケアの必要性は高まっている、と聞きました。

日本に戻ったら、あちらで当然となってしまう風景が、素晴らしいものだという事を改めて感じさせられます。東京もここ暫く秋らしくなり、美しい青空が広がっています。ここ数日祭日等があり、ゆっくりと出来ます。明日は、ラシエンコさんと葛西臨海公園へ散歩に出かける予定です

復興を導かれた神に感謝

宮城は利府キリスト教会は
菊地祥彦兄から



JEGのみなさん、こんにちは。僕が住む宮城県は、暑い夏が過ぎ去り、段々と秋らしくなってきました。

みなさんもご存知の通り、9月で

東日本大震災から3年半が経過しました。避難先で暮らす被災者は未だに24万人以上います。そのような被災地の現状を聞く度に「まだまだ震災が終わったことにしてはいけない」と強く思われます。そして、時間が経っても、被災地を思い、祈り、支援金を送ってくださる皆さんに心から感謝いたします。

先日は嬉しい出来事がありました。私の所属するオアシスチャペル(宮城県利府町)では、石巻市寄磯浜(よりのそはま)という漁村を支援してきましたが、その寄磯浜の海産物(帆立とホヤ)を使った食事会を教会で開催することができたのです。寄磯浜は養殖業が盛んな地域でしたが、津波によって養殖場は全滅し、堤防と岸壁は破壊され、漁港に隣接していた漁業倉庫や製氷工場、加工場はすべて流されました。復興はマイナスからのスタート

でしたが、この地域を神様は特別に祝福してくださいました。震災後、この地域



第1回 FCC-DRCnet 危機対応セミナー
危機に対応できる教会を目指して
希望の源となるために

東日本大震災から3年半、さまざまな危機と困難を経験してきました。取り残されていない復興の、助けをおぼえてくれる方々も多くおられます。走り続けてきた教会を主の前に、自分自身にケアが必要であることを確認したいと思っています。その上で、今後につながる継続のヒントを共有し、教会が人々の希望となっていくために、何が必要かをお互いから学びたいと思っています。どうぞご参加ください。

日 時 2014年10月28日(火) 10:30 ~ 16:30
会 場 須賀川シオンの丘
福島県須賀川市須賀川内202
〒975-0212 須賀川市須賀川 5-1-1
参加費 無料(自由献金あり)
※昼食は各自でご持参ください

プログラム

1. 明日のために振り返る(朝・朝・朝)
2. 存在を確立して伝える(石井一由紀氏)
3. 復興支援と教会となる存在(石井上義典氏)
4. 福島における危機対応(FCC 担当)
5. 分かち合いと祈りの時

危機対応 講師の4時間
DRCnetの危機対応セミナー
DRCnetの危機対応セミナー
DRCnetの危機対応セミナー
DRCnetの危機対応セミナー

申し込み方法 最新の要項で10/21までにDRCnet事務局に申し込んでください。
お問い合わせ info@drcnet.jp

共催:福島県中核キリスト教連合(FCC)・DRCnet災害対応チャペル委員会
協賛:クラッシュジャパン 後援:JFA援助協力委員会

には私たちを含め、5つ以上の教会もしくはキリスト教団体が関わるようになり、教会が1つもなかった地域にたくさんのクリスチャンが足を運ぶようになりました。

そんな寄磯浜には現在、新しい加工場がいくつか完成し、沖には震災前と同じ数の養殖棚が浮かんでいます。そして、震災前のようにホヤや帆立が水揚げできるようになりました。先日、寄磯浜を訪問した際には、漁師さんが船で養殖棚まで連れて行ってくれ、3年かけて育てた立派なホヤを嬉しそうに私に見せてくれました。まだまだ問題もありますが、私たちの祈りを聞いてくださり、ここまでの復興を導いてくださった主に心からの感謝を捧げます。



私は来年の3月いっぱいをもって、被災地支援活動のスタッフとしての働きを終える予定です。今年の4月から、この冬スイスJEG主催の創立二十周年記念セミナーで講師としてドイツに赴かれた岡田先生が院長を務めておられる日本聖書学院の授業を受講していますが、来年からはさらに神学校の学びや自分の召しと捉えているユースの働きに集中する予定です。僕の訓練のために献金をお送りくださり、本当にありがとうございます。

最近、個人的に、終末論の学びを深めたいと思っています。というのも、先日、教会のスマイルグループのリーダーたちを対象に牧師から終末論のレクチャーがあり、その大切さを認識したからです。第2テモテ4章を見ると、クリスチャンとして与えられた人生を走り抜くこと（「勇敢に戦い、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り通す」こと）と再臨を待ち望む（「主の現れを慕っている」こと）は明らかに関係がありますよね。自分の人生を全うするために、さらに終末論の学びをしていきたいと思っています。

そして、ますます聖書の真理を深く学び、聖書の真理を深くかつまっすぐに語れる働き人を目指します。

帰国者リトリート滋賀のお知らせ

滋賀県は信楽キリスト教会の
ウィリアムズ富由姫牧師から



2015年帰国者リトリート滋賀の集い3月20日（金）から22日（22日は、オプションで礼拝は遠方から来ら

れた方の為にあります）まで開催されます。

前回の2013年3月の帰国者リトリート滋賀には90名からの人たちが参加され、帰国者は、50名ほど来られました。この集いを持つことができ心から主の御名をほめたたえました。

食事は、信楽キリスト教会の婦人部（料理専門家、料理が得意な人達がいいます）が作り、昨年は、好評でした。又、集いによって帰国者の分かち合い会が毎月草津で行われるようになり、帰国者の方々と出会い、連絡を受ける機会が増えました。



2013年の帰国者リトリート

このリトリートの目的は、帰国者の方々の霊性が深められ、主に近づき日本の地にて証し人として用いられる器となる為のサポートをすることです。

来年のメッセンジャーは、横山基生師、ウィリアムズ・テモシイ師、そして私のトミュキです。メッセージ、証し、特別ギター演奏（長佑樹さん）、分かち合い会、陶器作り、散策などが企画されています。

来年持たれます集いも大いに用いられて、来られる方々の励みとなりますようにと祈っています。帰国された方々が日本で信仰的に成長し、又、外国に行ったことがないクリスチャンとの交わりでお互いが理解出来る機会となるようにと願っています

協力団体と教会

在欧日本人宣教会/ジャパン・クリスチャン・リンク/キリスト伝道隊/日本改革派教会 草津教会/信楽キリスト教会ならびに帰国者

ご連絡は、ウィリアムズ富由姫まで
<kikokushashiga@gmail.com>
帰国者リトリート滋賀のホームページは
<http://kikokushashiga.wix.com/retreat2013>



ヨーロッパの
日本語集会から

カルヴァンの地にて

ジュネーブは聖書をひもとく会の
早藤昌浩兄から



当会は岸井敏牧師を中心に2008年まではほぼ毎月1回のペースで家庭集会・聖書研究会を開催してきました。同年に岸井先生がレザン（ヴォー州のリ

ゾート地として知られる村）に引っ越されてからは、毎月の聖研は事実上休止しておりますが、8月の野外礼拝・昼食親睦会は、引き続き行っております。

会場は会のメンバーのご自宅を使わせていただくことが多いですが、年によってレザンに集まるなどさまざまな企画を考えております。その他、アドヴェント礼拝・昼食親睦会をジュネーブ・ルーテル教会を会場に開催するなどの活動を続けております。

今夏のプログラムは8月31日にレザンの英語教会チャペルで礼拝後、近くのレストランで愛餐会がもたれました。聖書をひもとく会のスケジュールの詳細等は小生までお問い合わせください。

masahiro.hayafuji@wto.org



ハーベスト・タイム・ミニストリーズが運営する神学教育プログラム

ハーベスト 聖書塾

新たに見つけた神様の真理 ハーベスト聖書塾をミラノで受講して 今村葉子

スイス日本語福音キリスト教会会員



2014年9月26日(金)～28日(日)にかけて『第一回ミラノ聖書塾』が開かれました。これは、ハーベスト・タイム・ミニストリーズの中川健一先生が行われている「ハーベスト聖書塾」で、今回欧州で初めて開講されました

まず、私がミラノの聖書塾に参加させていただく事になった経緯をお話させていただきます。私の子供がCSに通うようになり、また、CSでのメッセージのご奉仕をさせていただいた事から、私は聖書を読むのがとても好きになりました。旧約聖書には「アブラハム物語」「モーセ物語」「ダビデ物語」「ダニエル物語」「ヨナ物語」などワクワクする物語が多く、「ヨセフ物語」などはかなり感情移入致しました。ヨセフが兄弟達と再会を果たすシーンでは感動のあまり涙し、ヨセフが自分を裏切った友達にかけた言葉のあまりの素晴らしさにヨセフ最高！とCSの子供達よりはしゃいでいました。



しかし、イエス様が律法学者やパリサイ人に語られている言葉や、使徒パウロの書簡になると「一体、何の事だろう？」と思う箇所がたくさん出てきました。(聖書はイスラエルの民「ユダヤ人」に対して書かれているところが多く、異邦人の私には読み方を教えてもらわないと理解できない事が多いのです。)

また、私はよく自分の子供たちに聖書を語って来ましたが、彼らはまるで聴いていないかのごとく振る舞っているのですが、実は家庭で、また教会で語られている人々の話をたくさん溜め込んでいるのです。彼らが思春期を迎える頃になると、語られた神についての知識が本当なのか？という真理への探求を始めるようになりました。機会を捉えては、語られた真理の確認の為に私に質問をしてくるようになりました。

彼らの真理探求はとても切実です。私は少しでも子供たちや若者たちの質問に寄り添えたらと思い、学びの機会を探していました。そんな私の要求が高まる中で、昔から大好きなハーベストタイムTVの中川健一先生が聖書塾を開いておられる事を知りました。しかし、日本で受講しなければならない事を考えると遠い夢のような話でした。

けれどもこの夏、内村伸之牧師の愛犬ハンナちゃんをお預かりするおり、ハンナちゃんの餌の入っているバックから聖書塾のテキストとして使われている本、「日本人に贈る聖書物語」数冊を

発見してしまいました。その事から、ミラノ賛美教会で聖書塾が開講される事を知りました。もう、厚かましいなど考える一瞬もなく参加を懇願してしまいました。

そのような事で、私の長年の夢が叶い、聖書の学びの機会が与えられました。講義を受けての感想は「立ち込めていた霧が晴れ、山々、木々、花々が輪郭を現し、その素晴らしい姿(本来の言葉の意味)を見る事が出来た！」と言うような感じです。

また、ミラノ賛美教会のバイオリン製作者の曾我部実穂さんは受講後の感想をこのように表現されました。

「バイオリンの輪郭はすべてが曲線でなければならない。1ミリ、0.5ミリの直線もあってはならない。しかし、そのわずかな直線を見つけ出す事が初めは出来ない。けれども何本か作り続けていたある日、その僅かな直線を自分で見つける事が出来た。自分でバイオリンの輪郭を見つけ出した、あの時と同じような感動、喜びを感じる。」

というように、受講された皆さんそれぞれが新たに見つけた神様の真理を喜んでいました。

ミラノからの帰途、私の心は神様への感謝で溢れました。聖書をもっと知りたいと言う私の願いを汲み取って、神様はこのような形で実現して下さいからです。神様だけではなく、真理を追求し、その思いをぶつけてくれた子供たち。レポート提出に間に合わずに困っていた私に掃除、食事を交代で代わってくれた家族。励まして送り出して下さったマイヤー先生。たくさんのお奉仕を代わってくれたJEGの皆様。温かいおもてなしで迎え入れて下さったミラノ賛美教会の皆様、そして何よりも自信のない私のコメントに対して、励ましてやる気にさせて下さる中川先生に心から感謝致します。

(第2回ミラノ聖書塾は11月28日～30日です。私が受けている講座は聖書入門コースで、9月、11月のそれぞれ3日間、1講座90分の講座が毎回8回あり、全16回講座で終了します。その後は通信講座を受講する事ができます。)

ハーベスト聖書塾の案内 www.harvestseishojuku.net/



講師の中川健一牧師(左列3人目)そしてミラノ聖書塾の皆さん。